

龍の装飾彫刻が張り巡らされた軒下に注目
市指定有形文化財（建造物）
安楽寺本堂
新宮町上山 6198 番地



あじさいの里から車で約10分。今は閉校している旧寺内小学校の隣に安楽寺は位置しています。
この安楽寺は平成31年3月に市の指定文化財となりましたが、その最大の魅力は、本堂の軒下全体に龍の彫刻が張り巡らされた板軒彫刻。特に龍の頭を立体的に掘り出した箇所は最大の見どころと言われています。
また、唐獅子牡丹や岩山で埋め尽くされた正面の眺め、鉦で彫ったような荒々しい木鼻、建物全体が芸術的な彫刻の塊のようで、見る者を圧倒します。
このような板軒彫刻は非常に珍しいことから貴重と言われ、今後の更なる評価の高まりが期待されています。



最高潮となる屋台のゆさぶり。
乗り子の子どもたちは、
いろいろな表情をみせる。

中世京都の香りを残す
市指定無形民俗文化財
素鷲神社の神楽・屋台
新宮町上山 3132 番地

車であじさいの里から塩塚方面へ約15分ほどの所にある素鷲神社では、10月の最終日曜日に烏帽子姿の男の子が屋台に乗り、神楽を奏で、伊勢音頭風の囃子をうたいます。
これは、1511年に京都の嵯峨野から移り住んだ日野光朝が京の祇園神社をしのび始めたそうです。
ここ最近では中止されているとのことですが、若衆が屋台を荒々しく揺らす中、乗り子の子どもたちが必死に囃子を続けるシーンを見ることができません。
また、山間に佇む本殿も見どころです。文化財調査を行った県建築士会四国中央支部によると優れた彫刻物類や当時の建築技術が高く評価しており、建物の風格を感じることができます。
上山地区には、このような伝統と優れた文化財が多く残され、「雅さ」と文化的に「豊か」であった山間部の暮らしを伝えてくれます。

■問い合わせ先
文化・スポーツ振興課 28-6043

新宮観光協会
あらき 博久 会長



新宮町上山地区には、山間部の自然のほかにもたくさんの魅力があります。
多くの方が楽しんでいただくことで、私たちも郷土の誇りに感じています。

新宮町上山は、緑豊かな自然に囲まれ、梅雨の時期は紫や桃色など2万本のアジサイが咲き誇る「あじさいの里」、夏には、避暑を求めてキャンプやアウトドアを楽しむ「塩塚高原」などがあり、県内外から多くの観光客が訪れます。
今回は、その華やかな観光資源のほかに、古くから地域や暮らしに根付き、地元の人たちが受け継ぎ守ってきた文化財などにスポットを当て、どこか懐かしく感じられる郷愁溢れる側面をご紹介します。
ゆっくりと流れる静寂な時間、地域が歩み過ごしてきた歴史、そんな空間を味わいながら楽しんでいただきたいと思います。



～新宮町上山地区を探訪～
歴史と伝統芸能

鐘の音響く鎮魂の舞い
県指定無形民俗文化財 **鐘踊り**
新宮町上山 922 番地 大西神社



毎年、8月の最後の日曜日、普段は静寂な西庄地区に激かな鐘や太鼓の音が聞こえてきます。
その音の正体は、300年以上続くとされる県指定無形民俗文化財の「鐘踊り」。
戦国時代に長曾我部元親によつて滅ぼされた領主（大西備中守元武）をしのび、その善政を後世に伝えるために始まったとされています。
踊り手は、地域内外の小学生から高齢者まで幅広く、華麗な衣装に身を包み、跳躍が激しく華やかでありながらも、郷愁漂う踊りに心奪われます。
当日は、帰省する出身者や観光客も多く、脈々と受け継がれてきた伝統芸能を感じることができます。

1回の踊りに約40分～50分かかると言われている踊りを3回披露します。
昔は、踊り手たちが夜を徹して33回も披露し、奉納していたようです。